

新しい科目導入への試み

－「現代を生きるA」の実施報告－

The Trial to New Subject Introduction －An Enforcement Report “Living in The Present Age; A”－

(2001年4月1日受理)

菅 淑江 野瀬美紀子
Yoshie Suga Mikiko Nose

Key words：特色あるカリキュラム，自己教育，ゆたかな人間

は じ め に

将来、栄養士として社会にでる学生には、幅広い知識と豊かな人間性が求められる。なぜなら、食べ物や食べるという行為は、肉体だけでなく精神面にも影響を与えるものだからである。そのため、学生に対して、「現代を生きる」社会人に必要な、視野が広く、心身ともに健康で豊かな人間性と、自己教育の論理を意識化し¹⁾なにかに自信をもって生きられるようにすること²⁾の必要性を感じていた。

平成12年、私どもが所属する栄養士養成課程が、「生活学科食物栄養専攻」から科独立を行い「人間栄養学科」となった。この時、これらを踏まえ、「人間栄養学科」の特色あるカリキュラムとして「現代を生きるA・B」という科目を設定した。

「現代を生きるA」は、学習内容を学生の学内外の自主的な行事参加から主として組み立て、「現代を生きるB」には、海外宿泊体験研修旅行（自主参加）を当てた。

今回は、新しい科目導入の試みとして「現代を生きるA」について、初年度の学生たちの取り組みを中心に、この科目のもたらしたものの、問題点等を報告する。

授業運営方法

1. 履修対象

今回、「現代を生きるA」の履修対象者は、本学科2年生（平成11年度入学生85名）である。この科目は卒業必修にあたるため、2年生全員が履修した。履修時期は、2年次前期であるが、学外行事へ参加しやすい時期を考慮し、1年次の春休みから開始した。また、工場見学・テーブルマナー研修旅行が9月下旬に行われたため、「現代を生きるA」の最終レポート提出は10月中旬までとし

て、評価をした。

2. 履修方法

研修旅行、講演会、美術館・博物館鑑賞等の行事に参加し、そのレポートを作成して記録用紙と共に提出する（図1・2）。レポートの提出は行事参加後10日以内とした。

参加行事は①宿泊研修、②学内特別講師による講座受講、③学外講演会・講習会、④美術館・博物館等鑑賞の4分野に分類した。また、①～④の分野別に履修時間を設定し、30時間（1単位）の中の3時間分は②～④の中から各自自由に選択させ設計させることとした（表1）。

①・②の分野については、基本的に出席することとし、③・④の分野については各自の自由選択にまかせた。③・④の分野に関しては、講演会・美術鑑賞等の経験があまりない学生のことを考慮に入れ、いくつかの行事を掲示し紹介した。この時、学生に対してそれらの行事に行くよう強制しないように注意し、参考程度の紹介に留めた（表2）。

また、毎回提出されるレポートには、コメントを必ず記入しその都度返却するようにした。コメントを記入しその都度返却することで、記憶が鮮明なうちに自分の経験したことを見つめ直すきっかけを与え、次の行事へ参加する意欲をを起こさせる動機付けとした。

そして、最終レポート提出完了後、この科目の反省点・改善点等を把握するために、「現代を生きるA」に関するアンケート調査を一斉に行った（図3）。回収率は89.4%（n=76）であった。

3. 評価方法

「現代を生きるA」の評価は30時間以上の履修を行い、かつ①～④分野の各履修時間を充足して、それぞれのレポートが提出終了していることとした（表1）。さらに、レポート内容および提出期限が守れたかどうか等により評価を行った。そして最終的に、分野別の履修時間を50%、レポート内容を40%、提出期限を10%と配分して評価した。

<h1>現代を生きるA</h1> <h2>記録用紙</h2>	<p>現代を生きるA（1単位・必修）2年前期 この科目は、出席とレポート提出によって採点します。 その分野別時間配分を、今年度は下記の通りとします。</p>
<p>中国短期大学 人間栄養学科</p>	<p>① 宿泊研修旅行（9月実施予定） 参加し、所定の報告書を提出する。12時間</p> <p>② 学内特別講師による講座受講 1回：2時間 4回以上 8時間</p> <p>③ 学外講演会・講習会参加 1回：3時間 1回以上 3時間</p> <p>④ 美術館・博物館等鑑賞 1回：2時間 2回以上 4時間</p>
<p>番号（ ） 氏名（ ）</p>	<p>27時間</p>
<p>レポートは、この記録用紙を添えて提出すること。</p>	<p>以上が必修です。残り3時間分は②～④の中で、各自自由に設計すること。 なお、提出時には、この記録用紙に所定の項目を全て記入の上、レポートに添えること。レポートは、参加後10日以内に提出すること。</p>

図1 「現代を生きるA」記録用紙（表）

行事名	場所	参加 月日	レポート 提出日	確認印	備考 (参加分野の 番号を記入)
幕内秀夫講演会	岡山総合福祉会館	3/27	4/7	(印)	③
マナー講座	中国短期大学	4/6	4/7	(印)	②
同和教育	中国短期大学	4/6	4/7	(印)	②
相田みつを展	天満屋岡山店	5/1	5/8	(印)	④
冷泉家展	林原美術館	5/19	5/23	(印)	④
音楽療法士特別講演	中国短期大学ホール	6/3	6/5	(印)	③
フラワーアレンジメント	中国短期大学	7/3	7/12	(印)	②
ボランティア活動	中国短期大学周辺	7/4	7/12	(印)	②
中国料理	中国短期大学	7/7	7/12	(印)	②
フィールド・環境学習研修旅行	神戸等	9/1・9/22	9/28	(印)	①

図2 「現代を生きるA」記録用紙(裏)

「現代を生きるA」に関するアンケート

「現代を生きるA」は人間栄養学科の新しい試みとして開講した科目です。
受講を終えて、どのような感想をお持ちでしょうか。あなたの素直な気持ちを伝えてください。

- 「現代を生きるA」を受講して、どう思いましたか。つぎの中から一つ選び○をつけて下さい。また、その理由も書いてください。
・大変よかった。 ・よかった ・普通 ・よくなかった ・いやだった
[理由]

- 印象に残っている参加行事を3つあげ、その理由も書いてください。

	【行事名】	【理由】
1		
2		
3		

- 困ったことがあったと思います。それを具体的に書いてください。

- レポートを読んだ後、できるだけコメントを書きました。そのコメントについてのあなたの対応を、次の中から一つ選び○をつけなさい。また、コメントについての感想を書いてください。
・よく読んだ ・ほとんど読まなかった ・全然読まなかった ・気がつかなかった
[感想]

- この科目を履修したことで、あなたに変化が起きた面がありますか。あればそれについて書いてください。

図3 「現代を生きるA」アンケート用紙

表1 現代を生きるA参加行事時間配分

分野別参加行事	時間配分
① 宿泊研修	12時間
② 学内特別講師による講座受講	8時間 (2時間/回)
③ 学外講演会・講習会	3時間 (3時間/回)
④ 美術館・博物館等鑑賞	4時間 (2時間/回)
⑤ ②～④の中から、各自自由に設	3時間
合計時間数	30時間

表2 参加行事

参加行事名		参加人数	参加行事名	参加人数
学校行事	マナー講座(学外実習事前講義)	85	「アートパラダイス花を探そう」香川県文化会館	2
	同和教育(学外実習事前講義)	85	田中美術館	2
	工場見学・テーブルマナー研修旅行	85	「石川啄木展」サンクリスタル高松	2
	ボランティア活動	79	菊池寛記念館	2
	救命救急講習会	46	「現代の美」ふくやま美術館	2
	中国料理(餃子作り)(学外実習中学内行事)	35	「第51回岡山県美術展覧会～洋画部門～」岡山県立美術館	1
	「心を育てる絵本」(学外実習中学内行事)	22	21世紀家族をめざして～女と男の構造転換～	1
	フラワーアレンジメント(学外実習中学内行事)	14	「福祉セミナー」岡山総合福祉会館	1
学外行事(紹介したもの)	倉敷市学校給食展	61	「さんかくカレッジ」岡講記念公開講座「さんかく岡山」	1
	相田みつを展	39	「ガラス注意展」倉敷アイビースクエア	1
	新おかやま学 山陽フォーラム21「21世紀へ心を問うー日本人はどこに行くのか」	37	「芸能人々々の多芸能」倉敷三越	1
	音楽療法	29	「クリスチャンラッセンと世界のモダンアート展」イオンホール	1
	幕内秀夫講演会「子どもの健康と食生活」	19	第十回 日工展を訪ねて	1
	「冷泉家展」林原美術館	16	「ペイネ常設展示」作東町立美術館	1
	「30年前の生活」岡山県立博物館	9	「日蘭交流400周年 レンブラント版画展」高松市美術館	1
	「お米セミナーIN岡山」～21世紀の健康づくり～	4	やかげ郷土美術館	1
学外行事(個人で探したもの)	「塩の歴史展」広島県立歴史博物館	25	「第31回岡山展」岡山県立美術館	1
	岡山県立美術館 常設展	9	「日展」岡山県総合文化センター	1
	大原美術館	7	成羽町美術館	1
	岡山市立オリエント美術館 常設展	6	華鶴美術館	1
	「佐野洋子の世界」ふくやま美術館	6	「アート展示会」イオンホール	1
	カプトガニ博物館	4	福山城博物館	1
	倉敷市自然史博物館	4	「黄金の至福展」岡山県立美術館	1
	福山市美術展覧会	3	「石と生活」岡山市オリエント美術館	1
	「在宅介護療養教室」灘崎町保護センター	3	「古代ギリシャ展」岡山市オリエント美術館	1

【「現代を生きるA」に関するアンケート調査結果】

表3 受講して思ったことおよびその理由

	受講して思ったこと			
	項目 (人数(%))			
	大変よかった	よかった	普通	よくなかった いやだった
受講して思ったこと (複数回答)	12(15.7%)	48(63.2%)	16(21.1%)	0(0%)
普段行かない美術館等へ行くきっかけとなった。	9	35	3	
視野が広がった。	5	17	3	
普段の授業とは違う勉強が自分のペースでできた。	2	9	4	
研修旅行でいろいろな所に行き、楽しい思い出ができた。	0	7	1	
やってみると以外におもしろく、心が落ち着いた。	1	6	0	
自分を見つめ直す時間が持て、よい刺激になった。	1	4	0	
自分から美術館等へ行くようになった。	0	2	0	
レポートの書き方が分からなかった。	0	0	2	
その他	1	6	7	
別になし	1	0	5	

表4-1 印象に残っている参加行事(複数回答)

行事名	人数
工場見学・テーブルマナー研修旅行	71
相田みつを展	23
倉敷市学校給食展	19
救命救急講習会	18
ボランティア活動(学校周辺のゴミ拾い)	16
中国料理(餃子作り)	12
山陽フォーラム21「21世紀へ心を開くー日本人はどこへ行くのかー」	11

表4-2 各参加行事の印象に残った理由(複数回答)

1. 工場見学・テーブルマナー研修旅行

理 由	人数
楽しかった。	23
多くの場所を見学し、いろいろな体験ができた。	23
テーブルマナーを実践で学べた。	16
フランス料理のフルコースを初めて食べた。	5
その他	15
別になし	3

2. 相田みつを展

理 由	人数
感動して、心に残った。	14
元気が出た。	4
心が落ち着いた。	3
自分自身を見つめ直した。	2
その他	2

3. 倉敷市学校給食展

理 由	人数
昔を思い出して懐かしかった。	6
給食の歴史がよくわかった。	6
興味深く、おもしろかった。	4
その他	5

4. 救命救急講習会

理 由	人数
今後、役立つので。	13
大変だったので。	2
その他	4

5. ボランティア活動(学校周辺のゴミ拾い)

理 由	人数
暑い中一生懸命頑張った。	4
暑くて疲れた。	4
ゴミを捨ててはいけないと思った。	3
きれいになったのでよかった。	1
ボランティア活動に初めて参加したので。	1
その他	5

6. 中国料理(餃子作り)

理 由	人数
本場の手作り餃子を学べた。	6
おいしかった。	4
家でも作れるようになった。	2
楽しかった。	2
その他	1

7. 山陽フォーラム21「21世紀へ心を開くー日本人はどこへ行くのかー」

理 由	人数
多くの意見を聞き、考えさせられた。	4
その他	6
別になし	2

アンケート調査の結果および考察

表5 受講して困ったこと(複数回答)

内 容	人数
行く時間がなかなかとれなかった。	18
美術館等の場所がわからなかった。	14
交通費・入場料がかかった。	11
美術館等が遠かった。	6
レポートの書き方がわからなかった。	6
ノルマをこなせたかどうか、よくわからなかった。	2
その他	18
別になし。	18

表6-1 レポートのコメントに対する対応

内 容	人数
よく読んだ。	72
ほとんど読まなかった。	3
全然読まなかった。	0
気が付かなかった。	0
無記入	1

表6-2 コメントに対する感想(複数回答)

内 容	人数
ちゃんと読んでくれていることがわかり、うれしかった。	31
レポートの反省点がわかり、今後の参考になった。	14
もう少し書いて欲しい。	8
自分とは違う考え方があることがわかった。	7
次回もレポートを頑張って書こうと思った。	6
的を得たコメントだった。	5
その他	10
別になし	6

表7 受講して自分自身の変わった面(複数回答)

内 容	人数
美術館等へ自分から行ってみようと思うようになった。	20
いろいろな発見があり、視野が広がった。	16
いろいろなことについて考え、興味を持てるようになった。	8
充実した時間を過ごせた。	4
自分から行動することができた。	2
ゴミを捨てないように、また拾うようになった。	3
その他	10
別になし。	23
無記入	3

「現代を生きるA」を受講しての学生の感想

は、「大変よかった」・「よかった」が78.9%、「よくなかった」・「いやだった」が0%であった(表3)。全体の約80%を占める肯定的な感想の理由で最も多かったのは、「普段行かない美術館等へ行くきっかけとなった」というものであった(表3)。以前から行ってみたいと思っていた者、まったく興味がなかった者等それぞれの状況は様々であったと思われるが、この授業が美術館等へ足を運ぶきっかけにはなったと思われる。その他、「視野が広がった」、「授業とは違う勉強が自分のペースでできた」等の理由があげられており、自分自身の成長を自己評価し、拘束されない授業形態に満足している様子うかがわれる。

【印象に残っている参加行事】は、「工場見学・テーブルマナー研修旅行」が最も多く、その他「相田みつを展」、「倉敷市学校給食展」、「救命救急講習会」等があげられている(表4-1)。「これらの行事が印象に残っている理由」としてもっとも多くあげられているものは、「楽しかった。」や「おもしろかった。」というものであった。楽しみながら勉強することでその行事に対する興味・関心を持つことができ、印象に残ったと考えられる。また、「相田みつを展」に関しては、「感動して、心に残った」、「元気が出た」等の理由があげられており、学生の持つ純粋さを垣間見たようにも思われた(表4-2-2)。

【受講して困ったこと】では、「行く時間がなかなかとれなかった」、「美術館等の場所がわからなかった」、「交通費・入場料がかかった」などであり、時間・場所・費用の3点が学生にとって特に問題点であったと考えられる(表5)。

【提出されたレポートに毎回書き込んだコメント】

に関しては、94.7%が「よく読んだ」と答えている（表6-1）。[そのコメントに対する感想]では、「ちゃんと読んでくれているとわかり、うれしかった。」が最も多かった（表6-2）。コメントを毎回書くことは、レポートをきちんと見ていることを学生に伝え、次への意欲をかきたてる結果にもなっていたようである。しかし、行事によっては一度に大量のレポートが提出され、早く返却するためにどうしてもコメントが短くなってしまうことがあり、それを不満に思う学生もいた。そのことは、担当者として今後の改善点の一つであると考えている。

「『現代を生きるA』を受講して自分自身で変わった面があるか」という問いについては、「美術館等へ自分から行ってみようと思うようになった」、「いろいろな発見があり、視野が広がった」等の回答が得られた（表7）。この科目を受講したことを通して、新しい発見、興味に出会い、視野を広げ、強制によるのではなく自ら行動することができるようになったことは、大変前向きで喜ばしい変化であると考えられる。「美術館等へ自分から行ってみようと思うようになった」という学生は全体の26.3%、「いろいろな発見があり、視野が広がった」では21.0%と割合的には低いが、授業の目的達成への手応えがうかがわれた。担当者としては、この項目について、学生が卒業した後5年後、10年後に回答を求めたいと考えている。

ま と め

以上、人間栄養学科の特色あるカリキュラムとして開講した科目「現代を生きるA」の1年間の取り組みと学生の感想をまとめた。学生1人当たりの参加行事は平均8.7カ所で、提出されたレポート数は延740であった。これだけの内容の多岐に亘るレポートを読むのは、大変さと楽しみが半々である。できるだけ確かなコメントを付けるため、担当者も学生が参加しそうな催し物には必ず出席し、その内容把握に努めた。「良さそう」と思って推奨した催し物が内容的に問題をもつものであるケースもあり、そのフォローに苦慮した例も1～2ある。これらの講演会に対する事後説明には、レポートのコメントだけでは軌道修正が難しく、また「多様な考え方の一つ」としてはすませられない場合もあった。そこで、担当する別の科目の中で「考えてみよう」と取り上げたケースもある。しかし、原則的には、学校での学習とは異なる考え方に対して否定をするのではなく、自分でよく考えて消化し、自分自身で答えを見つけだしていける力を付けられるよう、コメントにも気を配った。また、その学生と学内で出会った時には、担当者としてさりげなく話題を持っていき「こういう考えもあるよ」と話すようにも努めた。だが、普段の学校生活の中で、このような機会を偶然に作り出すことはなかなか難しいものである。個々の学生と対話して内容をよりよく咀嚼し、味わい、消化するための方法を見つけることが必要であると痛感している。

また、学生の費用負担を軽減するため、できるだけ努力を行った。その1つとして、美術館・博物館等に団体扱いに相当する人数の学生を行かせることで、団体割引額の入場料にして欲しいとの交渉を試みた。しかし、許可を得ることはできなかった。この科目では個人の自主的行動をねらいとしているので、引率による行事はできるだけ行わないように努めた。学生の費用の負担軽減を

どうするかは、残された課題である。

提出されたレポートの中には、キラリと輝くものも多くあった。岡山市立オリエント美術館に行ったある学生のレポートは、既成概念とは異なった視点から美術品等をみており、大変おもしろく感心した内容であった。このレポートをオリエント美術館宛に送ったところ、『岡山市立オリエント美術館友の会』の会報³⁾に掲載された。その他、学生が参加したシンポジウムや中国短期大学の学校紹介の中で新聞に取り上げられ、学生のコメントが活字になったこともある^{4), 5)}。このような体験は、本人のみならず周囲の学生にも大きな励みになったようである。1年間の取り組みだけでこの科目の効用を結論づけるわけにはいかないが、開講に当たってのねらいの第一段階は達成できたのではないかと考える。

今後この1年間の経験を生かして、学内行事内容や学外催し物の紹介の充実、できるだけ迅速なレポート返還、的確で柔軟な内容のコメント、そして個々の学生との対話に努めながらこの科目を育てて行きたいと思っている。

参 考 文 献

- 1) 千葉悦子：地域住民の自己教育活動「女性政策と自己教育活動」, 生涯学習研究年報 第1号 地域生涯学習計画化と社会教育実践, 83, (1996)
- 2) 梶田政巳：学校における評価活動の基本－帰納的アプローチの重要性－, 学習評価研究NO.26, 131, (1996. 6)
- 3) 岡山市立オリエント美術館編：岡山市立オリエント美術館会報「ラピス」21号, 14, (2001)
- 4) ㈱山陽新聞社：山陽新聞4月23日版, 21, (2000)
- 5) ㈱山陽新聞社：山陽新聞2月12日版, 11, (2001)